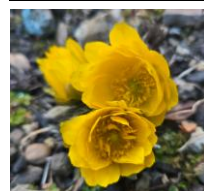


四谷の

千枚田だより



第 269 号



長野県生坂村 視察研修

依頼文

「生坂村では高齢化や人口減少により、農業者の減少や耕作放棄地の拡大が懸念されていることから、地域ぐるみの話し合いにより農地を含め、地域農業をどのように守っていくかを具体的に検討していくため、令和五年度から農林水産省の最適土地利用総合対策事業を活用し取り組みを進めています。」

そこで、先祖から受け継いだ貴重な農地の利用を通じた地域の魅力づくりの動機、手法、仕組み等に関する取り組みについて学び、農用地の効率的かつ効果的な利用を促進するため、下記のとおり視察研修を実施する運びとなりました。

つきましては、貴会における取り組みについて視察研修をさせていただきますが、ご多忙中の折とは存じますが、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

生坂村長 藤澤泰彦

視察日時 令和八年一月十五日

視察メンバー 生坂農業未来創りプロジェクト会議 十三名

視察研修には生坂村長さんもお越しただけのことから会場を「市民センターほうらい」に設定、下江市長から歓迎挨拶をいただいた。「生坂の皆さん本日の視察につい



て、四谷の千枚田を選んでいただいたことに心から感謝申し上げます。四谷の千枚田は中山間地特有な環境を構築、保存会が母体になり環境保全型農業を実践しながら美しい景観の維持継承にご苦労いただいております。四谷の千枚田は先祖から受け継いだ貴重な地域資源をしつかり守っていくと平成九

年に保存会を発足しました。保存会の活動は農水省の「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」受賞を始め数々の受賞からも、その努力、評価などもしつかり伺われております。

千枚田では、連続特Aにランクされている「ミネアサヒ」を栽培、立地条件を活かした(湧き水・天日干し)美味しいお米を作っております。

また、市内で一番大きな工場、横浜ゴム新城工場の新人幹部研修の受け入れが端を喫して同社が率先、官民参加型の環境保全活動の場とした外来植物の伐根作戦やビオトープの造成管理などの活動。また、愛知東こども農学校、地元小学校、豊橋調理製菓専門学校、稲作体験受け入れなど様々な形で棚田の保存継承に活路、協力していただいております。本日、皆様に置かれましては有意義な研修になりますことを願います」と歓迎の挨拶。

生坂村藤澤村長は、「小さな村でございまして、長野県は平成の市町村合併がそれほど進まず七十七市町村でございます。そして村は三十五あり生坂村は十一番目で人口が現在千六百人を切つてしまいました。そんな状況の中、当村の主要産業である農業を盛んにしていこうと「生坂村農業未来創りプロジェクト会議」を立ち上げました。当村のブドウ栽培はほぼ順調に推移していますが先祖から受け継いだ農業も高齢化であったり、また、他の作物をどのように作っていくべきなのかなどと村ぐるみで地域計画を立て、模索しているところでございます。

本日は本当に貴重な時間を



ようだしして恐縮でございますが我々もしつかり勉強をさせていただき生坂村の農業の活性化また維持に繋げて行けばとの思いから視察をお願いした次第であります。どうぞよろしくお願いいたします」

名刺交換自己紹介に続いて小山保存会長から活動内容を「ディスカバーむらの宝」応募資料を基にパワーポイントで紹介した後、現地を案内した。※概要説明は長々と述べたことから割愛。

質疑応答(Q&A)ではQ小さな段々田んぼは全部手作業か？A耕運機、田植え機、バインダー、ハイベスタなど全部農機使用Qこんな急所を耕しているのを見て甘えてはおれん、頑張りを買った？Q生産米の販売は？A規模が小さく販売はほぼないが、余剰米(古米を「千枚田五平餅」として丸八製菓(豊橋市)と製品開発、東三河郵便局の協力を得て宅配便で全国展開、好評であるQ国など行政支援は？A直接支払制度、加算などQ害獣被害、対

策は？Aシカ、イノシシ、サルによる被害が頻発、本日配布した「四谷の千枚田だより」を参照、野生動物の進化から人と獣の知恵比べ、獣に負けているQ生坂はブドウ園のサル対策に侵入防止柵の上部に電気柵を設置、効果がある等々、闊達な意見交換がなされた。

生坂村視察研修参加者

村長 農業委員会 三名 農協 三名
村議会議員 二名 農業者 二名 村職員 道の駅 駅長

応 対 下江新城市長 安藤産業振興部長 請井鳳来総合支所長 地域課二名 奥平東海農政局愛知拠点地方参事官ほか三名 小山保存会長
後日、生坂村からご丁寧なお礼の書面が届きました。

拝啓 厳冬の候 皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます

この度は 貴会への視察に際しまして ご多忙中にもかかわらずご指導を賜り誠にありがとうございます

おかげをもちまして 貴会の農業の取り組みや先祖から受け継いだ貴重な農地の利用を通じた地域の魅力づくりの動機 手法 仕組み等について学ぶことができ 有意義に視察を終えることができましたこと 厚く御礼申し上げます
略儀ながら 書面をもちまして御礼申し上げます
敬具

令和八年一月

生坂村長 藤澤 泰彦



鞍掛山麓千枚田保存会

会長 小山 舜二様

生産活動

一月十七日、中山間地域等直接支払制度四谷集落協定(村雲伸一代表)の構成員は生産活動の一環として指定地以外の耕作放棄地も含めた草刈り(環境保全)を行った。



雪はかなわん

今季はいつになく雪が多く、東北地方や日本海側は三十年ぶりの豪雪で雪かきに自衛隊までも出動する有様で、生活にも支障が生じている、本当に気の毒だ。

当地に於いても昨年の十二月四日に初冠雪、今年になって十二日に十センチ、十四日はちらつく、二十一日、十センチが積もり、二十五日まで毎日雪が舞った。三十日は十五センチの積雪があった。(積雪量は千枚田)



一月三十日、朝の散策の帰り道、古宿組の衆が生活道の雪掻きを行っていた。「大変だノンご苦労さま」と声をかけたら弓脇の勝つちやが「…参つちやうぞん、これで今年二回目だ。掻かんと夜中に凍つちやつてつるんツルンになって危なくてしよんないでノン。こつち(大林)とあつち(身平橋)じゃあえらい違いだゾン」と言いながらセッセと雪掻きに励んでいた。

そんな最中、素通りもできず「わるいノン すまんノン」と気遣いながら家路についた。

NHKヒストリー放送

渡辺いっけい片身の眼鏡と謎の旅芸人「どうすけ」が一月十六日に放送された。

ヒストリーでは父母の生い立ち、故郷などで地域住民や身近な方々の取材協力から構成された。

私は渡辺一恵(いっけい)さんの母親伊藤しま子「しまちや」の故郷

や幼年期などの取材協力を行った。しまちやは四谷の千枚田の「大代集落・うしろ山」で生まれ育った。※うしろ山は大日如来・祇園田楽発祥の地として知られる。

住いは人里離れた棚田の「ぼつんと一軒家」でランプ生活。通学は三つ違いの妹と一時間あまりの山道「与良木峠」を超え通学。伊藤家は美男美女の家系であった。

ここではヒストリー番外編として「しまちや」との絆について延べる。しまちやは豊川市一宮町の渡辺家に嫁ぎ「一恵」を授かった。

私が県水試に勤めていた頃には家も近く、同級生のこつちや(のざわや食堂)や富ちや(原田医院)、妹のつやちや共々食事を重ねた。

ひとつに、夏には「釜淵」で泳いだりジンタ(雑魚)釣りなどで遊び、急峻な「かしやげ峠」を大声で歌いながら帰った。等々、また「全国棚田サミット開催十周年記念」や「お田植え感謝の夕べ」などにお招きしたりの絆は今でも続いている。

そうそう、しまちやが一恵ちゃんをおんぶした「子守りばんてん」を胴着に作り直し「千枚田だより」を書くときに着りん…と頂戴しました。

放送翌日、「いっけいさん」から取材協力のお礼の電話で、まだ放送は見えていないが我が家のヒストリーに驚きと皆さんに感謝の一心であったこと、近々母と一緒に故郷「連谷」を訪れたい、と話が弾んだ。

行 令和八年二月十五日

鞍掛山麓千枚田保存会

文 責 小山 舜二